

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・例年、年明けは年末の反動があるが、今年はその反動が少なかった。	
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・改装が終わってから売上が上がったので、良かった。	
		スーパー（店長）	販売量の動き	・生鮮食料品の動きが大分良くなってきた。食料品と衣料品の動きはまだ悪い。	
		スーパー（店長）	来客数の動き	・天候に恵まれたのと、例年どおりの気温変化により、販売点数、客数も増えた。さらに、ガソリンも安くなったので、購買力が上がっている。	
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今月に入っても生鮮食品に関しては売上が順調に推移している。12月は暖冬であったが、1月になって気温が下がり、季節商材が好調に売れている。	
		スーパー（統括者）	販売量の動き	・売上高が順調に推移している。	
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・客単価が前年と比べてわずかではあるが上がってきている。商品の値上がり等の影響がないこともないが、通常は目的買いのために来店し、必要な物だけを買っていた客が、それ以外の物を買う、例えば、たばこを買いに来て缶コーヒーも買うといった光景が見受けられる。	
		衣料品専門店（チーフ）	お客様の様子	・2～3か月前に比べると、目的買い中心の客が増えており、買い控え等も多数見受けられる。	
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・前年末に販売開始された新型車が順調に売れている。しばらくは新型車の投入効果で車両販売が売上増加に寄与する。	
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・雪のため営業時間が2日短かったが、売上は前年を2～3%ほど上回った。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月の前半は暖冬、後半は急激な大寒波に襲われ客の流れがつかみにくい月であった。週の前半は夜の繁華街でも閑散としていたが、週末には活気に溢れていた。	
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・今年度だけでなく、来年度持ち越しの事業の相談が見受けられる。	
		通信会社（営業）	販売量の動き	・販売数が増え、機器納入先の商品が品薄状態となっている。自社だけにとどまらず、同業他社も同じ状況がうかがえる。	
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・イベント集客で3か月前に比べ来客数が1.5倍となった。消費税増税前の動きが徐々に出てきた感がある。	
		変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・来店数は季節によって当然違うが、客の購買行動が非常に悪い。購買までに時間が掛かり、単価に厳しい状況は3か月前と変わらない。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・大型郊外店の販促の影響で若年層及び家族連れが少なく、年始における商店街への来街者は高齢者のみである。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は休みも多く、悪天候の影響もある。特に衣料品関係が伸びていない。
			一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・例年、正月明けは悪いが、今年は特に悪い。他の人に話を聞いても皆、悪いと言う。魚の動きも悪い。しけ続きで魚の入荷も少ない。
			百貨店（総務担当）	販売量の動き	・暖冬の影響で、主力のアパレルやスノーボード、冬山用品等の売上が厳しく、客数も減少傾向である。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・衣料品は苦戦しているが、雑貨は好調であるという大筋は変わらない。	

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・初商いは恒例の福袋への客の関心が高かった。商品目録が入った1万、2万円の福袋への関心が高く、開店時間を早めて特設会場へ案内開示した。また、抽選で当選者決定する高額夢福袋は乗用車、建物等購買目的の客と、子ども向けの1日店長体験、電車・機関車の運転体験、地域マラソン等は好評で申込が多く、難関の抽選となった。実用的な食品福袋、ブランド福袋も目的買いで好調で、複数の福袋を持った客で混雑した。衣料品は寒波の到来が遅く苦戦した。月末の大雪で2日間にわたる閉店時間の繰上げ、開店時間変更と交通機関のマヒで苦戦したが、催事での高額衣料販売等、客の要望にマッチした商材の販売は好調である。
百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・防寒商品など気候により売行きが変化する季節商材は鈍く、プレゼントや自分へご褒美品として提案する商品は堅調である。年末から1月の状況では、引き続きコート、ブーツが苦戦する一方、おせち料理や年始の手土産、新調用の財布、入学や卒業商品は出足が良い。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・株価や原油等の相場の低迷から先行き不安が出ている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・食料品は単価アップで好調に推移しているが、暖冬傾向で衣料、日用品は不振が続いている。
スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合のドラッグストアが1月中旬、近隣に開店した。生鮮食料品の扱いはないが、一般食料品は価格で少し負けている。開店前は103%で推移していたが、開店後は94%となり、9%ほどの影響が出た。生鮮食料品を中心に価格が高騰し、売上は前年並みで推移している。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・暖冬から一気に極寒となり、冬型商品の動きが良くなったが、大雪等の影響で前後の売上の幅が大きく、台風時並みの振れ幅があった。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・高価なものはあまり売れず、単価的にはかなり低い安価な商品が売れるようになっている。全体的に売上も客数もあるが、客単価は下がっている。
コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・当店の前に市の支援施設ができているので、工事関係の客が増えている。天候が悪いとその客の来店がなくなり、通常の客のみになるため前年並みの売上になる。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・2～3か月の間、客の動きに変化はない。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・セールに入ってから寒くなったこともあって防寒が動き出した。しかし、天候不順などで客数は伸びず売上は前年割れだった。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・11～12月が暖冬だったため売れなかった分、今月は寒波がきて、単価は低いが売上は一気に良くなった。ただし寒波が過ぎるとまた変わらない状態に落ち着くと考える。
家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・暖冬の影響で冬物が動かず、初商も前年比約80%であった。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・寒波により、エアコンを含む暖房器具の動きは良いものの、テレビや冷蔵庫といった主力商品は前年並みで推移している。単価は上昇傾向にあるが、客数が伸び悩んでいる。
住関連専門店（経営者）	それ以外	・初売は低調だったが前年並みであった。後半、大雪のため客足が伸びず売上にも響いた。
その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	来客数の動き	・1月は閑散期であるのにもかかわらず、来客数は前年に比べ増加傾向にある。
その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は、ここ数年のなかで一番下がっている。満タン購入の客が増加した。販売量は前年並みだが燃料油購入時に浮いた予算でカーケア商品を購入する客が増えている。
その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（支配人）	お客様の様子	・年末年始のセールの販売状況について、前年同様安いものは売れるが、少し高額になると売れなくなる。

	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・トレンドに変化はない。インバウンドで客数は増えているが、単価が下がっているので前年並みである。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	来客数の動き	・年末年始やクリスマスなどの行事時は活気があるが、通常時は客数、買上点数は低調である。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は大きな団体がいくつか入ったおかげで、例年になく客数が増えた。
	高級レストラン（専務）	販売量の動き	・当地では県外からの客が少なくなっている。ただ、アジアからの客が入ってきており、なんとか持ちこたえている。
	高級レストラン（従業員）	お客様の様子	・あまりの寒さに客の様子が分からず苦労している。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年とほぼ同じ実績であり、予約状況も良くも悪くもない。
	観光型ホテル（専務）	お客様の様子	・首都圏の客は景気が良いようだが、地元の客の動きが悪い。
	都市型ホテル（販売担当）	単価の動き	・売上自体は悪くないが、生鮮食品などの単価高騰などがあり、景気が良いとは言えない。
	都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・昨年の7月以降、ずっと宿泊の単価も上がり、売上も上がっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・衣料品関係者の話では、新しくできた駅ビルに客は入るが冬物衣料品が売れないとのことである。夜の繁華街は、気候の関係で全く人通りがない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・寒さで昼の動きが悪く、夜は少しだけ動いた。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・ある地域で農作物の収穫時期が重なったが、その収穫量があまり思わしくないとの話もある。
	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・この業界では、平日と週末のプレー代の差がある。週末にプレー代の安い企画をすると、団体職員など地元の客が多く集まる。それ以外の日は県外の客が多く、所得の格差に広がりがあるようだ。価格競争というより所得の差に応じた価格帯をこれから模索しないといけない。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・数か月前から比べると横ばいで、年末年始の動きもそれほどではなかった。数字だけみると上下動の微増はあるが、大きな動きはない。
	美容室（店長）	お客様の様子	・客の様子からみても必要に迫られて来店が多く、景気は良くなっていない。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・今月に入り新規契約者の数が、前年と比較し80%に下がっている。成人の契約が減少し、ジュニア、小中学生の契約はほぼ同数となっている。
	設計事務所（代表）	販売量の動き	・株価が下がってきている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・不動産業の分譲関係は、寒波の影響もあり客の出足が悪い。ただ、それほど状況が悪いということではなく、問い合わせ自体はあるので、先月と変わらずといったところである。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街への来街者の減少や暖冬による影響も大きな要因ではあるが、先行きが不安なのか消費欲が全くない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・1月下旬に九州では珍しく積雪があり、客の出足が鈍った。その後も雨が続き、来店数に影響を及ぼしている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・12月はプレミアム付商品券の駆け込み需要等があった。1月になって天候の影響もあり落ち込んできて、悪くなっている状況である。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・寒さで来客数は減少し、売上も前年に比べると減少である。近所のスーパーでは特定の曜日に売出しをしているが、景気上向きと言っている割には人の集まりは悪いようにみえる。
	百貨店（営業統括）	来客数の動き	・初商が終わり、本格的なクリアランスに入ったものの、寒波並びに年初からの株価続落等により、特に高額品の購買客数が減少している。
	百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・今月は大雪により来店客が伸びず、売上が大きくマイナスとなった。気温の影響も大きいですが、今年は婦人服を中心とする衣料品部門の低迷が続いている。

	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・価格に敏感な客もまとめ買いする冬物処分期に入ったが、今年は買物に慎重な客が多い。接客時、必要になってから考えるとの反応を聞く。	
	百貨店（企画）	販売量の動き	・暖冬影響もあり、衣料品中心に季節商材が不振である。	
	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・当店は3か月前102.1%、当月の見通し93%である。1月下旬の雪の影響で前年比18.1%となったことが、数値を大きく下げた要因である。入店客数は7月以降2けたで12月までは102.1%だったが、1月は94.5%となった。非食品の客単価が95.6%、食品は103.2%ということで、食品については相変わらず良い。インバウンドが今月はかなり良く、前年比430.5%となり、そのうちのシェア50%を化粧品が占	
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・今月は、前半は非常に暖かく、後半はまれにみる大雪で交通機関等がマヒし営業不能だったという特殊要因があり、来店数が悪かった。	
	ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・暖冬傾向のせい、かぜ薬、カイロ等季節商材の販売量が伸びていない。今月末は数十年に一度の寒波で客の来店が減った。今後、季節商材の販売には予断を許さない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・外国人観光客の宿泊者が前年末と比べて明らかに減りだしている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・企業の出張利用は、首都圏を中心に活発であるが、レジャーでの利用はここ2～3か月低調である。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・昼も夜も悪い状況である。客の財布の紐が固くなっている。1月下旬の大雪の際は、客の動きが結構あり、いくらか持ち直した。しかし、その後は悪かった。	
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・同じ習い事でも学習を本来とする塾などに流れて、音楽系は少なくなっている。	
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・毎年1月に売上は落ちるが、今年は大雪、大雨の影響で客の出足がかなり滞っている。客は財布のひもを締めており、やり繰りが大変なようだ。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・寒さの影響もあり来客数が極端に減少している。ディスカウントショップの影響もある。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・年初来の株価の下落で、富裕層の動きが非常に悪くなってきている。インバウンドが前年に比べると落ち着いてきている。限定品などは商品の動きは早いが、お金があってもなかなか財布のひもは固い。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・天候は安定していたが、来店客はほとんどない。	
	高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・例年1月は来客数が少ないが、今年は特に少ない。天候の影響もあるが要因はそれだけではない。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・前年同月に比べても売上は悪くなっている。	
企業動向関連 (九州)	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・賃金の上昇や他の諸経費の上昇に伴い、10～20年上がらなかった工賃が、上がりそうだ。しかし、少し上がるぐらいでは、今の賃金の上昇に追いついてはいけず苦しい。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・株価の下落など不安材料はあるものの商業施設の建設などが増えている。ホテル用の家具需要はホテル建設ラッシュのため、前年比150%以上の受注状況である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注関係は順調に進んでいる。しかし、原材料価格の高騰に対し、製品の値上げの浸透がまだ不十分な状態である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・予想以上に受注が増えてきており、その影響で人手が足りない。これはしばらく続く。
		電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・車載関連の半導体、イメージセンサー分野で着実に引き合いは増加している。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・市内のある地域では、物流拠点のニーズが強い。通信販売の拡大によって倉庫やトラックの需要が大きくなっている。
		経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・中国の爆買い影響が出ている。それをきっかけに日本製品を中国に販売する活路が出た。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・新卒・中途共に積極的に採用活動を進める企業が多く、採用に成功したという報告を受けることが増えてきた。

変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1月は例年厳しい状況であるが、今年は予想したより居酒屋、スーパーの売上は良かった。ただし、雪のために工場が1日稼働できず、販売減につながったことは大きなマイナスであった。冷食メーカー向けの原料肉は、相変わらず引き合いが好調である。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当工場の製品は、景気の影響をあまり受けない。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・例年は、下期に売上、受注増となるが、今年はその勢いはない。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の引き合い状況からこれ以上の仕事量は期待できない。
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・受注状況は変わっておらず、客の様子も以前と変わらない。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・寒波による雪の影響で一時期、輸送が乱れたものの、全体的な荷物の動きに変わりはない。
	通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・情報サービス業界において受注量は順調に推移しており景気の変動はない。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・新興国経済の減速などから海外向けの生産はやや弱含みながら、国内向けは持ち直し傾向にある。個人消費は飲食料品や宝飾品等の販売が増加するなど、緩やかに持ち直してきている。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の中小企業は全般的に設備投資等に掛かる資金需要はまだ鈍く、金融業界全般に広がる貸出金利の金利競争により既存債務の借り換え程度の借入しか実施していない。
	新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・1月売上のベースとなる正月期間はほぼ前年並みをキープしたが、全体では90%前半に落ち着く見込みである。業種別の大きな増減はなく、主力の通販、旅行広告は前年並みとなっている。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・受注面に関しては、目立った動きがないまま現在に至っている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・10月ごろと比べた場合、変化はなかった。1月は12月ほど活発でもなく、天候も不順で非常に寒くなってきたため、売上が厳しいところが多い。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・製造業の取引先は生産設備を増強すれば売上増加は見込めるが、人手不足で投資できない。トラックの冷凍冷蔵設備製造の取引先も同様であるが、納品が18か月先と環境が良い場合が多い。運送業の取引先は燃料代が減少し、増益基調となっている。リース会社の金利収益は上がらないが、貸倒がない分投資しやすい。金融機関が積極的に融資話を持ち込むケース多い。
やや悪くなっている	農林水産業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・年末特需期が過ぎ、流れは良くない。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーからの受注量に不安定要素が多いため、いつもの動きより鈍くなっている。
	建設業（社員）	競争相手の様子	・いまだに、官公庁の工事を受注できていない同業者がいるようで、社員を抱えて下請だけでは経営できないとのことである。官公庁も発注の平準化や、大型補正工事を発注するなどの方法を考えてほしい。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・暖冬の影響か、例年に比べて物量が減少し、売上が減っている。原油価格が下がってきており、一時的には経費は抑えられるものの、人件費はまだまだ高い。売上純増のために値段の叩き合いが懸念される。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・企業活動においては、売上等が3か月前と比べると上がっていない。個人の動向については、消費税増税の影響がダメージでかなり響いている。
	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業の話を見ると、前年は円安による国内回帰の動きが顕著で受注が順調であったが、11月ぐらいから受注が減少し、回復のめどが立っていない。中国経済の減速が原因と考えられる。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地では建設関連の会社で受注が回復するという見通しであったが、現状、公共、民間問わず発注量はかなり前年比で少なくなってきており、厳しい状況が続いている。
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村からの業務委託について、これまで予定価格が低い業務の入札においては、指名業者の多くは、辞退や予定価格に近い金額で入札に応じていたが、この1か月内における入札時には、赤字が出る金額で応札するケースが多くなっている。

	悪くなっている	その他製造業 [産業廃物処理業]	受注量や販売量の動き	・顧客の生産量が激減している。中国の株式市場も下落し、鉄くずの相場価格も原油下落により更に下降中である。今後の見通しが全くみえない状況となっている。
(九州)	良く なっている	職業安定所(職員)	求人数の動き	・12月の新規求人数は、前年同月比で36.8%増加、3か月連続2けた増となり、建設業、製造業、運輸、郵便業、卸売・小売業、医療・福祉、サービス業の主要産業すべてで増加となった。
	やや良くなっている	人材派遣会社(社員)	周辺企業の様子	・業界問わず、春先に向けての求人の問い合わせがあり、動いている案件がいくつかある。就業形態自体も直接雇用、又は新卒募集不足分の募集等の動きがある。大型商業施設のオープンが近いと、事務以外の販売系の案件も動きがみられる。
		人材派遣会社(社員)	求職者数の動き	・派遣登録者数が減っている。求人誌等では直接雇用の求人が増えている。派遣登録の予約を入れても採用が決まってキャンセルする人が増えた。
変わらない	人材派遣会社(社員)	採用者数の動き	・人材派遣業を行っているが、大型業務受託案件の依頼が増えた。依頼人数は多いが紹介のため、利益が一過性のものが多い。また派遣社員の待遇向上のため、派遣会社の利益が圧迫されてきている。	
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・1月の求人数は、長期案件、短期、単発案件とも通年と変更はない。しかしながら、1月末の大雪の被害が出ていることもあり、損害保険会社などの業界からの短期的な依頼がある。
	人材派遣会社(営業)	雇用形態の様子	・業種問わず人材不足であるが、景況感上昇に伴うものではない。	
	求人情報誌製作会社(編集者)	周辺企業の様子	・今春、駅前に2つのビルがオープンする。駅周辺がビジネス街から商業地域として様変わりすると同時に市の施策と相まって、当都市圏は活性化するが、地元中小零細企業と中央大手企業とのサービス格差、時給格差がますます広がり、経営難になる恐れがある。	
	新聞社[求人広告](担当者)	それ以外	・当地では中国からの客船の寄港が多く、爆買の観光客が目立ったが少し落ち着いてきた。中国だけでなく、韓国、東アジアからの観光客も増えているが、大きな消費はそう期待はできない。	
	新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・求人市場は好転しているものの、生活者として景気上向きの実感がない。	
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年9～11月の3か月の総数でみると10664件に対し、今年9～11月は12232件となっており、求人数は1500件ほど増である。一方、新規求職者数は前年比で500人ほどの減である。	
	職業安定所(職業紹介)	求人数の動き	・新規求人、及び月間有効求人の前年比での増加傾向が続いており、有効求人倍率も高くなっている。	
	民間職業紹介機関(社員)	求人数の動き	・年度末案件も若干でてきているが契約満了もあり、求人は微増となっている。	
	民間職業紹介機関(支店長)	求人数の動き	・年度末に向けて求人数が増えない。	
やや悪くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・求人数が減少している。景気の動向を見定めるため、企業が採用を先送りしている。	
	職業安定所(職員)	採用者数の動き	・3か月前ごろまでは、新規求職者数が減少しているにもかかわらず就職率は前年度比でプラスの状況が続いていた。ここ2か月間は前年度比がマイナスに転じていることから、景気が悪化しつつある。	
	悪くなっている	-	-	-